

函館の 新たな価値の 創造を目指して



函館開発建設部長

菊池 一雄氏

このほど、法人会会員の企業オーナーになんらかの参考になればということ、函館開発建設部長菊池一雄氏より『函館の新たな価値の創造を目指して』という新年の所感がよせられました。

法人会の皆様、新年明けましておめでとうございます。日頃より函館開発建設部の事業の推進に、ご理解とご支援を賜り誠に有り難うございます。

私は兵庫県明石市出身で、高校の修学旅行で初めて函館で北海道の土を踏みました。その縁が深かったのか、現時点で二年半以上も在職し、私の立場としては少々長い部類に入ってきたこの頃ですが、私見を交えつつ当部の取組をご紹介させていただきます。

去年放映された池井戸潤原作「下町ロケット」のテレビドラマをご存

じの方も多いと思います。下町の中小企業が、巨大企業やライバル企業のある手この手の策略や圧力に翻弄されながらも、モノづくりの卓越した技術力で障壁を乗り越え契約を勝ち取り、社会貢献や夢の実現のためのモノづくりを果たしていく痛快社会派ドラマ。少し青臭さも匂うが夢とロマンを追い続ける企業トップとその想いに懸命に報いようと努力する従業員の熱い気持ち伝わり、自分もついつい食い入ってしまいました。モデル企業の有無も取り沙汰されてはいますが、どちらにせよ、ここに中小企業の底力を見たような気がします。

さて、幕末から昭和に至るまで函館が発展してきたのは、三つの出来事によると思います。一つ目はロシアの脅威を憂えた幕府が東蝦夷地を直轄とし、国後・択捉を含む東蝦夷全域の産物を一八〇三年に奉行所を置いた箱館に直接集荷できるようにしたことであり、これに先駆けて幕府から箱館や兵庫などに交易の拠点築いてきた高田屋嘉兵衛が択捉漁場の開発を命じられ、一七か所の漁場開発に成功し択捉場所請負人とし



て、箱館における交易を大いに盛り上げました。さらに、造船所の開設、掘り抜き井戸の設置、植林、道路の改修、開墾など箱館と周辺地域に跨る多くの社会事業にも尽力しました。二つ目は開港です。一八五四年幕府はペリーと日米和親条約を締結し、船中欠乏品の補給港、漂流民の保護・救助のための避難港として開港しました。これにより、箱館の防備意識を強くした幕府は、武田斐三郎に五稜郭の設計・建設や続豊治に洋式船の建造を行わせるなど西洋技術をいち早く取り入れました。そして一八五八年日米修好通商条約締結により国際貿易港として名実ともに開港し、英仏蘭露とも通商条約が結ばれ、舶来雑貨類を輸入し、写真術、洋画などの西洋文化、蘭学、測量、航海、築城など近代技術を急速に吸収しました。三つ目は、日露戦争を経て、明治以降も函館において北海道や北洋の漁業による海産物の集散地機能や国際貿易がさらに発展し、これを目当てに明治の政商をはじめ豪商が全国から集まり、造船業、倉庫業、海運業や金融業が創業され、

経済活動が活発化しましたが、特に日露戦争後の一九〇七年の日露漁業協約により露領漁業が最盛期を迎え、函館は大正・昭和初期の黄金時代の幕開けとなりました。この時期函館の人口は順調に伸び、大正九年の第一回国勢調査では、全国九位の東北・北海道最大の都市にまで発展しました。諸外国からの領事館や教会などが建ち並び、数度の大火に見舞われたこともあって、いち早く水道技術やコンクリート、緑樹帯による幅広街路を取り入れた近代的な洋風都市景観が形成されました。このように、函館は、幕府による直轄化と卓抜した先人達の並々ならぬ努力による東蝦夷地などの未開地や国後・択捉の漁場などの開発と日本のジブラルタルと呼ばれた天然の良港への機能集積、それを目当てに全国から集まった政商、豪商による様々な殖産興業によって、発展してきました。

今、函館を巡る状況を見ますと、天然の良港である函館港は、近隣の鉄道、道路そして空港などの交通ネットワークの形成や港湾そのものの機能がさらに充実されてきたところでありますが、これまでの発展の源である海産物資源は、その漁場の海域の狭隘化や資源の枯渇によって、漁獲は大幅に落ち込むとともに経済活動規模も次第に縮小していき

ます。函館の主要産業は、今なお漁業と関連する加工業、卸売業であり、水産と関連産業による食と歴史が育んだ異国情緒あふれる景観そして自然と人工の調和による独特の夜景を最大の売り物にした今日の産業の観光業です。既成の資源を大事に活かすことは大切なことです。さらに経済活動を広げ飛躍していくためには、産業の中に新たな価値を生み出し、付加価値をつけていくことが最も肝要です。併せて、労力不足を踏まえICTやAIなどの技術を取り入れ省力化を図り、収益性も高める効率性の改善も重要です。函館には、北海道大学水産学部をはじめはこだて未来大学、北海道教育大学、函館大学などの大学や函館工業高等専門学校など高度でユニークな教育や研究を行っている多くの学校が存在しており、多くの研究者や学生がレベルの高い知識を身につけており、こ

ある道路、港湾、空港の整備や強靱で持続可能な国土づくりとして、治水、治山をはじめインフラ老朽化対策などのハード施策も含まれておりますが、重要課題は前者の取組であり、充実した経済活動や人の生活が保持されてこそそのインフラ基盤であります。微力ながら函館開発建設部としても、直接関わっている産業振興関連の取組について少しご紹介します。

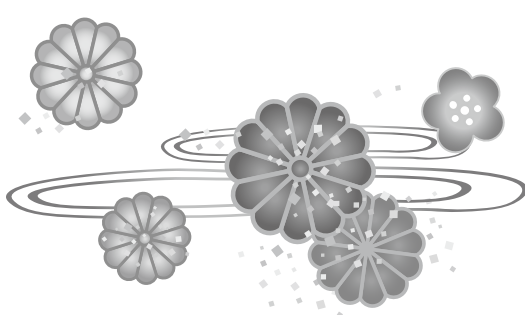
一つ目は函館湾岸価値創造プロジェクトというもので、公益団体、大学、国、地方自治体、企業そして研究機関など多くの組織が連携し、函館と近隣の歴史的なコンクリート建造物などを観光資源として取り上げた観光ビジネスの可能性の検討や資源紹介の各種メディアの作成などを行う取組、二つ目は、やはり地方自治体、漁業協同組合、大学、企業などと連携し、直轄整備している漁港水域で、近年注目のスパーフードの一つであるアカモクの生育とその活用について実証する取組であります。前者は、早くから外国技術を取り入れ、近隣のセメント産業とも関わりが深い函館ならではの取組で

あり、モノづくりが盛んな東海地方で人気の高い産業観光と通ずるものであります。多分深く追究することに惹かれる質の日本人が多いので、この取組を上手く育てると化ける可能性があると期待しています。後者は、フコイダン、フコキサンチン、オメガ3脂肪酸などの健康・美容成分が豊富に含まれるアカモクは、女性を中心に人気が高く供給が需要に追いついておらず引く手数多状態ですが、高品質で安定的な供給にはそれなりの技術が必要のため、まだ参入の余地があります。北海道では元々食文化がなく馴染みがないのですが、北限の道南南部水域は高濃度で質の高いアカモクが生息していることから、極端に漁獲が低迷している回遊魚以外の選択肢として、安定した収穫に向けた人工的な生育技術の確立に期待しています。これらの取組のほか、当部が建造したダム、

港湾などの施設や工事中の現場の見学を旅行代理店の旅行企画に組み込んでいただく取組（北海道開発局HP参照）や地元企業が開発した新素材を土木資材として試験施工を行うフィールドの提供など、大小を問わ

ず様々な主体と連携できることを模索し取り組んでいるところですが、また、直接の支援が難しい場合でも、当該案件の支援メニューを持つ関係機関への橋渡しや場合によってはコーディネートも可能な場合もありますので、お気軽にご相談いただければ幸いです。

それでは皆様、幕末、明治の先人達が、東蝦夷地や北洋という未開の地を開拓し、函館の発展を誘ってき たように、函館の地に様々なイノベーションを押し進め、夢を持てる未来を切り拓き新たな年号の始まりに相應しい年にしようではありませんか。



「e-Tax」なら国税に関する申告や納税、申請・届出などの手続きがインターネットで行えます。

国税電子申告・納税システム

e-Tax

電子申告で効率UP!

納税にはダイレクト納付が便利です!

e-Taxを利用して電子申告等をした後に、届出した預貯金口座から、簡単な操作で即時又は期日を指定して納付することができます。

※事前にダイレクト納付利用届出書の提出が必要です。*届出書の提出から利用可能となるまで、1か月程度かかります。

e-Taxを利用して所得税及び復興特別所得税の申告をするとこんなメリットが!

添付書類の提出省略

還付がスピーディー

法人会 法人会は会社経営の効率化のためにe-Taxの普及を支援しています。

ご利用に際し条件、注意事項があります。詳しくはホームページでご確認ください。

イータックス 検索